

第50回日本SF大会
**DONBURA
CON**
ドンブラコン エル

**PROGRESS
REPORT 1**

静大出身ゲストコメント

嶋田 洋一

静岡 SF 大全

第1回「ゴジラ対ヘドラ」

潜入!?! ドンブラコン! 会場を下見せよ!
嵐を呼ぶ会場下見会に集まった面々の真の目的と、その結末とは!?



実行委員長より

プロGRESSレポート1号発行にあたり、本来ならば実行委員長の決意であるとか所信表明であるとかを書かねばならないところですが、そういうものが苦手なものでご容赦下さい。

そんなわけで、ここでは第50回日本SF大会の、『ドンブラコンL』というその愛称について、少しだけお話ししましょう。

ドンブラコンは、今回の発起人のうち長戸・桜井・池田の3名が、1996年の日本SF大会「コクラノミコン」において、フェリーの一室を貸しきって宴会をしながら会場に向かうという企画を実施したのが始まりでした。そして、以降SF大会に合わせて船を使用したオプションツアーとして長良川の鵜飼船や第65回世界SF大会での横浜湾クルージングなど不定期に続けられてきました。

将来は大きな船を貸しきって船上SF大会をすることを目標にしていたのですが、実行するためには解決しなければならない課題が多く、たいへんな困難が予想されるため実現に向けて踏み出すことができませんでした。そんな時に見つけた今回の会場の「グランシップ」は名前の通り船を模した形状の建物であり、まさに渡りに船でした。

このような経緯から今回の大会の実行委員会には母体となるファングループはありません。会場は静岡、受付事務は栃木、委員長は大阪、そして実行委員は全国に分散しています。第50回という記念すべき大会を全国のファンの手で作り上げたいと考えています。

第50回日本SF大会「ドンブラコンL」
実行委員長 池田 武

静大出身のゲストコメント 嶋田洋一



ドンブラコンLに参加するみなさんに、地元・静岡大学OBとしてご挨拶申し上げます。

OBといっても、わたしが在学していた時期にはまだSFサークルもなく、友人と二人で細々とSFの話をしているに過ぎませんでした。今ではSF研が元気に活動しているようで、羨ましい限りです。

あの当時、もっとSFの話がしたいと悶々としていた静岡の地で、とうとうSF大会が開催されることになりました。

それも第50回大会という節目の年ということで、大いに感じるどころがあります。

日本SF大会が開催されるようになってから半世紀……わたしは1985年の「ガタコン special 夏祭り」が初参加なので、ちょうど半分のところから参加していることになります（何度か参加できなかった大会もあります）。

そんな中、第一世代からは鬼籍に入る方も増えてきて、世代交代の波が押し寄せてきているのも事実でしょう。

今後さらに50年、100年とSF大会が続いていくのかどうかはわかりませんが、ともあれ節目の50年。ばあっと盛大にやろうじゃありませんか。

静岡県は駿河湾に面し、温暖な気候で知られています。あまりにも温暖で過ごしやすいので、大物の武将や政治家が出ないのだなどと、地元の人が笑いながら言うのを聞いたこともあるくらいです。産品としてはお茶とミカンが有名ですが、これも駿河湾に陽光が反射して、日照の量が豊かだからよく育つなどと言われています。

今回の開催地の最寄り駅である東静岡は、静岡市の中心である静岡駅の1つとなりの駅です。わたしの学生時代にはなかったんですが、貨物駅を改装する形で作られたとのこと。実物大ガンダムが設置されたことでも有名ですが、残念ながら、大会当日にはすでに撤去されているようです。

タミヤ模型の本社はここから南に少し行ったところで、その近くには競輪場、三菱電機の工場などがあります。わたしが学生時代に住んでいた静岡大学雄萌寮も、競輪場の近くになります（競輪場の警備員のバイトをする寮生も多く、ほとんどそれだけで生活費をまかなってるようなやつもいました）。

名物としては、丸子の安倍川餅、丁子屋のどろろ汁、田丸屋のわさび漬などが有名でしょうか。丁子屋は車がないとちょっとつらいかもしれませんが、バスも出ています（静岡鉄道のターミナル、新静岡センターから）。

市の中心部に大きな書店が3つあります。江崎書店、谷島屋書店、戸田書店で、いずれも静岡駅から歩ける範囲です。飲み屋街は、やはり静岡駅から歩いて、七軒町あたりが学生の定番でした。

実は先日、三十年ぶりくらいに静岡市を訪れて歩きまわったんですが、けっこう道に迷ってしまいました。大会で静岡を再探訪するのが、今からとても楽しみです。

それではみなさん、来年の夏、静岡でお会いしましょう！

嶋田洋一

1956年東京生まれ、翻訳家。静岡大学人文学部卒。日本SF作家クラブ、日本文藝家協会会員。

「静岡 SF 大全」へのご招待

大阪在住だが、どうしてもという時には渋々東京へ行かざるを得ない。忙しいので当然新幹線を使う。もちろんひかりやこだまではなく、のぞみである。したがって名古屋の次はすぐに新横浜か品川。列車の中で SF 本に熱中していると、このふたつの駅の間に横たわる広大な土地があることは、なかなか意識に上ってこない。

だが、18 切符を片手に東海道線を乗り継ぐならば、見える光景は一変する。浜名湖、天竜川、行けども尽きぬ緑の茶畑、橙の蜜柑、そして青い駿河湾。YAMAHA、スズキ、ホンダ、カワサキ。世界四大バイクメーカーのすべてがここにある。バンダイ発祥の地もここであり、タミヤ模型もここに本拠を置く。さらに続くは大井川鉄道、富士山、伊豆…一気に旅の主演へと躍り出るのだ。

そんな静岡を舞台にした SF はないか。実行委員会に問われてはたと困った。確かに静岡の伸縮自在な存在感は SF 的だが、「静岡 SF」はあるのだろうか？

むろんあるのだ。しかもかなり意外な顔ぶれが。

大反響を巻き起こした「東京 SF 大全」を受けて、「静岡 SF 大全」も私たち評論賞チームが担当させていただくことになった。大量すぎて絞り込むのに苦労した「東京 SF」と比べても、いやいや、なかなか、侮れない。探せば、ここにも、あそこにも、あるある——ある。まさかあの作品が静岡 SF だったなんて。私たちも驚いた。ぜひその驚きを共有していただきたい。

そしてもし「なぜあの作品がないのだ」と思われるのであれば、ぜひ情報をお寄せいただきたい。水面下に潜む「静岡 SF」は、まだまだたくさんあるはずである。

(評論賞チーム代表・高槻真樹)

静岡 SF 大全・第 1 回『ゴジラ対ヘドラ』

1971 年東宝作品『ゴジラ対ヘドラ』。監督は坂野義光。出演：山内明、木村俊恵、川瀬浩之。

静岡県は気候温暖にして政治的にも平穏。美しい富士山を擁し、日本の平安を象徴するがごとき土地柄だ。にもかかわらず、いや、であるがゆえに、日本で一番怪獣襲来の多い土地だ。

富士には怪獣が良く似合う。

ゆえに、富士山が最も美しい怪獣映画『三大怪獣 地球最大の決戦』を取り上げるべきかとも思ったが、あえてここに問う、『ゴジラ対ヘドラ』を。

時は高度経済成長も頂点に達した 1970 年代初頭。急速な経済発展の一方、公害という形の環境破壊で人類はおろか地球生態系へ危機が及んできた。景勝・田子ノ浦も工業排水によるヘドロが堆積し、駿河湾でも奇形の魚が獲れる。そこへ巨大なおたまじゃくし状の怪物が出現する。海洋環境学者の矢野とその幼い息子・研はこの怪獣に遭遇し、ヘドラと名付けた。

少年・研は夢の中で、人間の排出する廃棄物・汚染物質が海の生命を殺し、やがてゴジラの元に至り、ゴジラの怒りを買う様を幻視する。

果たして、ヘドラは富士市に上陸。それに呼応するが如くゴジラも来襲する。

ゴジラ対ヘドラの格闘。ゴジラの鉄拳に飛び散るヘドロ。放射能攻撃で生じた放電に痛手を受けたヘドラは海に逃げる。

ヘドラの異常な生態にとまどう科学者。父・矢野博士はヘドラが鉱物質で構成され廃棄物で汚染された環境でのみ生存できると看破し、人間の横暴がヘドラを呼んだと怒る。

再び現れたヘドラは硫酸ミストを噴射して飛行する能力を獲得していた。人々はヘドラの瘴気に爛れ崩れ溶ける。評論家はヘドラが水棲・上陸・飛行と形態進化を続けている事を指摘して、今後、どのような進化の道を取るか予測不可能である事を告げる。広がる社会不安。先鋭的な若者は、豊かな社会と生存可能な環境が両立しない事に絶望し、刹那主義に走る。

進化したヘドラは再度上陸する。自衛隊は矢野博士の発案を容れ、富士の裾野に巨大電極を設け、放電攻撃を企てるも、たまたま送電線を破壊され作戦は窮地に陥る。そこへゴジラが出現。ゴジラの身を挺した攻撃にヘドラは瀕死の呈で脱皮して空中へ脱出。ゴジラはなんと放射能噴射で飛行追跡する。追いつくゴジラはついにヘドラを捕え、酷くとどめを刺す。

ヘドラの死に歓喜する人間に、しかし、怒りの一瞥を投げて、ゴジラは南海に去った。

『ゴジラ対ヘドラ』は不遇な作品だ。社会派テーマと娯楽性の融和の困難さ、監督自身の作家性と商業性のミスマッチ、なによりサイケデリック表現が低予算ゆえに安物に見えてしまった。

例えば、オープニングタイトルで007映画のタイトルロールと同じ表現形式を試みた。ゴーゴークラブのお立ち台で全身タイトの女性が体の線も露わにセクシーに踊り狂う。これらは娯楽性を加味したものだろう。だが、同じクラブで酒に酩酊した青年は幻覚を見る。本来はドラッグに酔って描きたかったのであろうこのシーンでは、狂騒する若者達の頭が魚と化して地球を汚染する人類を糾弾する。ブリューゲルいや、サイケデリックな極彩色にボッシュの如き悪夢を描こうとした意思を私は見る。

また、ヘドラとの最初の遭遇で、廃棄物が縷々広がる海底の薄暗き潮の奥から現れ遊弋して通過する巨大鯨のごときヘドラは、坂野監督得意の海中撮影で培ったドキュメンタリー手法であろう。一方で、来るべき災害を少年のクレヨン画のカットを用いた紙芝居的表现。ヘドラ襲来に混乱する市民各階層(サラリーマン・主婦・OL・漁民・労働者・女子学生等々)をテレビカメラで正面からとらえて不安恐怖を語らせ、そのテレビ画面がマルチ画面となってスクリーン全体を埋め尽くすという手法も採った。これらは社会不安を表現する社会派の技法だろう。

また、こういう矛盾もある。主人公の子どものヒーローとして召喚されるゴジラは怪獣映画＝ヒーロー映画の方向性を推進しようという映画会社側の意図があったに違いない。一方で、飛び散るヘドロに生き埋めになって死ぬ麻雀雀を囲んでいたサラリーマンとか、硫酸ミストにより肌は焼け爛れ、肉は崩れ落ちて骨のみ残る道行く市民などは、『ガス人間第一号』『マタンゴ』など怪奇映画の表現を踏襲したものと言える。カタルシスかグロテスクか。怪獣映画のあり方への作り手側の迷いといったものも感じられる。

ゴジラとヘドラの対決で、互いの左を取ろうと回り込みながら間合いを詰めていくというくどいほどに長いシーンは、黒澤明の『姿三四郎』の姿と老柔術家・村井との試合シーンへのオマージュではなかったか。その一方で「怪獣映画にスピード感を」というプロデュース側の意向に沿ってゴジラを飛行させるのに、放射能噴射による逆向き飛行をさせてしまったのは、御都合主義的荒唐無稽に抗して「リアリティ」を求めた監督の良心のなせるわざではなかったろうか。初監督作品で商品性と芸術性と報道性と経済原理に引き裂

かれた苦悩を感じざるを得ない。志高きが故にB級映画になってしまった作品だと私は思う。

この作品は私の見た映画の中で、最も汚らしい映画だ。しかし、その汚らしさは「現実の汚らしさ」を突きつけるために違いない。坂野監督はゴジラに空を飛ばせたかどでゴジラ映画から追放されたという。しかし、真実は現実を描こうとしたからではなかったか。環境問題を告発した作品としてレイチェル・カーソンの『沈黙の春』、有吉佐和子『複合汚染』など、今は事実誤認やセンセーショナルリズムの否定的部分ばかり喧伝されるが、果たして当時提起された問題は現在解決されたのだろうか？ 1971年当時の公害病、水俣病とカネミ油症は、治療法が未だ見いだされず、政府・加害企業の補償さえ満足ではないばかりか、社会全体が償いを回避しようとしている。被害者の死によって問題が解決されるのを、日本人は息をひそめて待っているかのようなのだ。

日本人はゴジラが現れて、穢れを洗い流してくれるのを待っているのか。そうこうしているうちに、自然に対する畏れを知らぬ中国が経済発展の名の下に、環境破壊を汚染被害を圧殺しかねない勢いだ。越境大気汚染による酸性雨。黄河上流からの工場廃水は川沿いの中国国内に被害を出しつつも東シナ海へ流れ込む。「見ぬ物清し」と汚い現実から目をそらし、美しい日本を見つめるだけで未来はあるのだろうか。

坂野義光は、その後、世界破滅テーマの特撮映画『ノストラダムスの大予言』の特撮班監督を手がけた後、自然ドキュメンタリーで評価を高め、TV番組『すばらしい世界旅行』『野生の王国』で監督を務めた。また、1982年、スタジオぬえが参加したSFアニメ映画『テクノポリス21C』を企画した。この作品はロボットと人間の共生する市民社会を描いており、後のTVアニメ『超時空要塞マクロス』『未来警察ウラシマン』や『機動警察パトレイバー』『バブルガムクライシス』など、科学・技術の発達により変容する市民生活を描く作品へ影響を与えた。環境と文明と生活。その密接な関わりが顕現させる多様な実相を記録的に写す事。それが坂野義光が求めたものではなかったろうか。

ちなみに矢野博士のフルネームは矢野徹と伝えられているが、作品中でフルネームが出てきた形跡は見当たらない。

(鼎 元亨)

潜入!?! ドンブラコン! 会場を下見せよ!

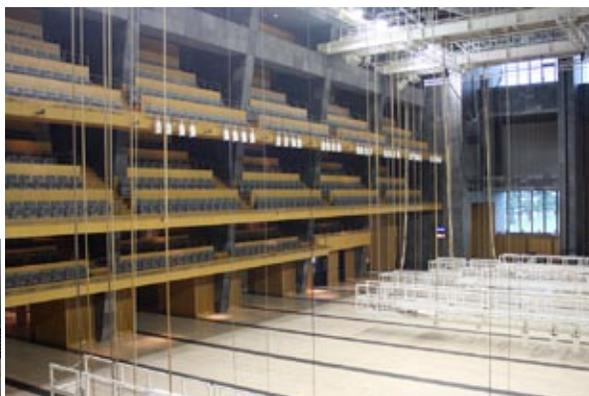
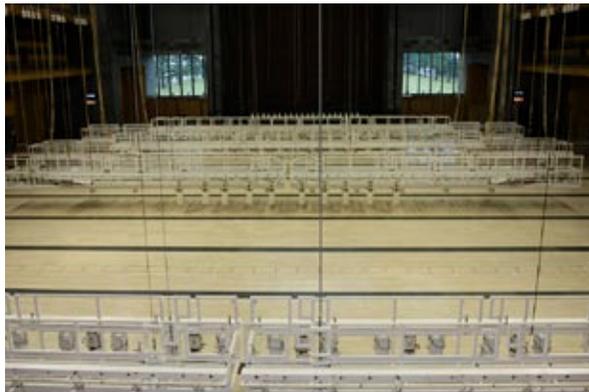
去る9月8日、グランシップの全館休館日に合わせて現地見学会が行われました。

平日水曜日、しかも台風の中にもかかわらず20名を超える参加者が集まり、会場を隅々まで見て回りました。

冒頭にも書きましたとおりこの日は全館休業日であり、われわれ実行委員会にとっては、(使いやすい規模のイベント会場として人気が高くなかなか下見できない中ホールを含めて)会場のすべてを一度で見ることができる貴重な機会でした。

大ホールでは、普段ははるか頭上高くにあるはずの設営用足場が、この日は整備のためぜんぶ床面まで降りてきていました。(右上。その下は2階から上の座席)

そんなわけで、ここの写真は実際に使用する時の様子とはまったく違ってしまっています。



映像ホールは他の部屋から隔離されたような場所にあるのがネックですが、映画会社にある試写室のような雰囲気、上映会系の企画を盛り上げてくれるような雰囲気です。(左)



1000人規模と、開会式や閉会式に一番使いやすい大きさの中ホール。映像関係も多彩な上映設備を持っています。





企画での使用がいちばん多いであろう会議室は、大小さまざまあり、予想参加人数に応じて都合のいい部屋が選べます。



会場の紹介は今後のプログレスレポートで行っていきますが、参加した我々のもう一つの目的はグランシップと線路を挟んだ向かい側で開催中の『静岡ホビーフェスタ』と、なによりもそこに立つ実物大ガンダム像！

会場見学と打ち合わせを終えて現地に着いた我々の前にあったものは……



■自主企画のお申し込みについて

自主企画申し込みに関しましては、その後の実行委員会との連絡等の必要性、実行委員会の事務処理の負担軽減を鑑み、web 上でのお申し込みにご案内させていただきます。

公式サイト上のweb フォームにご入力いただく（こちらを推奨します）か、pdf で申し込み用紙をダウンロードして記入後、実行委員会宛お送り下さい。

印刷した企画申込書を配布・郵送することはいたしません。あらかじめご了承お願いいたします。

実行委員会からのお知らせ

■公式サイトについて

第50回日本SF大会ドンブラコンL公式サイトが稼働しております。参加申し込み、スタッフ申し込み、企画申し込み、ディーラーズルーム出展申し込み、ご意見ご要望等はこちらで受け付けております。

スタッフ会議の日程や場所もわかりますし、このプログレスレポートのpdf版をダウンロードすることもできます。

プログレスレポートと併せて、こちらも随時ご参照下さい。



※画像は10月時点でのトップページです。

<http://www.sf50.jp/>

■twitter アカウントについて

公式サイトよりも細かな情報に関しましては、公式 twitter アカウントにてつぶやいております。参加者、参加をご検討中の方はぜひフォローを！

http://twitter.com/sf50_japan

■大会開催時間について

第50回日本SF大会ドンブラコンLは、2011年9月3日 11:00 から開会式がはじまり、閉会式は翌4日の17:00 に終了する予定です。早めに旅程を決めたい方は、この時間を目安にして下さい。

■合宿および宿泊について

実行委員会では、9月3日の夜をより楽しく過ごしていただくために、大会会場グランシップへのバス送迎つき大会公式合宿を計画中です。詳細は次号以降のプログレスレポートにて発表いたします。先着300人程度の募集となる予定ですので、情報をお見逃ししないようお願いいたします。

なお、その他の宿泊に関しましては、旅行代理店経由でJR静岡駅周辺のシティホテルをご紹介します予定です。こちらも次号以降のプログレスレポートにてご案内いたします。

■オプションツアーについて

まだ検討中の段階ですが、大会前日の9月2日金曜日にオプションツアーを考えております。今後の情報をお楽しみに！

編集後記

ありがたいことに最近非常に忙しいです。大半はただ働きですが(笑)

その忙しいさなかに、プログレスレポートを発行するというので、突貫で作業しました。せめて宣伝くらいさせてもらおう。

あわれとお思いなら、拙著『^{アイリーン}災厄娘 in アーカム』(新熊昇 都築由浩/青心社刊)をよろしく願います。

都築由浩

第50回日本SF大会ドンブラコンL プログレスレポート第1号 web版

発行日 2010年11月10日

発行人 池田武
編集者 都築由浩
連絡先 〒328-0075 栃木県栃木市箱森町25-68

有限会社 T-CNET 内 ドンブラコンL 係
TEL:0282-20-1270 FAX:050-3156-1349

Email : info@sf50.jp <http://www.sf50.jp/>

現地見学会を実施します。

緊急告知

プロGRESS
レポートの締め切り
に間に合いませんでした

1. 合宿企画の下見会

開催日程 2011年2月5日(土)15時
～6日(日)10時

開催場所 三保園ホテル(現地集合・送迎バス交渉中)
静岡県静岡市清水区三保2108
TEL-054-334-0111

参加費用 9,800円(税&サービス・込)
参加締切 2011年1月11日(月)

タイムテーブル(予定)

- 2月5日(土)
 - 午後3時頃 ホテル内の見学会 (施設の見学、担当者との質疑応答、等)
 - 午後6時頃 夕食 (懇親会)
 - 午後8時頃 企画
- 2月6日(日)
 - 午前10時頃 チェックアウト

※ まだタイムテーブル詳細は決まっています。
詳細が決まり次第、告知します。

その他

- 見学会当日は土曜日で施設の稼働率が高いためホテル内の全ての施設の見学は出来ない可能性があります。予めご了承ください。
- 申込後のキャンセルは1月31日(月)までをお願いします。
1月31日(月)以降の申込取消はキャンセル料が発生しますので御注意ください。
- 男性部屋、女性部屋、の相部屋になります。

参加申込

- (1)氏名 (2)性別 (3)年齢 (4)住所 (5)連絡先
(6)緊急連絡先

上記(1)～(6)を記入の上で下記メールアドレスまでお申込みください。

sf2011-conpack@sd.dcnns.ne.jp

※なお、今回は日本SFファングループ連合会議の親睦会と併催になります。
日本SFファングループ連合会議は、毎年SF大会に承認を与え、星雲賞を運営しているSFファンの団体です。
大会運営や星雲賞に興味のある方のご参加をお待ちしています。

2. グランシップ見学会

開催日程 2011年2月6日(日)11時～16時

開催場所 グランシップ(JR東静岡駅前)
静岡県静岡市駿河区池田79-4
TEL-054-203-5710

参加費用 なし
参加締切 なし
参加申込 不要(10時50分1階ロビー集合)

2010年11月13日発行
第50回日本SF大会実行委員会
<http://www.sf50.jp/>